

平成 30 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 13	公益目的事業 19
主査名	中村文彦 横浜国立大学 理事・副学長	
研究テーマ	新興国・途上国の都市公共交通の計画論に関する研究	
研究の目的： 本研究では、過去3年度、自主研究として採択いただいた新興国の都市公共交通政策に関する一連の研究成果をもとにして、対象地域を新興国および途上国地域全般でとらえ、バスなど都市公共交通の計画論について、実践的側面と学術的側面から、そのあり方を明らかにすることを目的に研究を推進した。特に各都市での都市公共交通にかかるケーススタディ、関連文献研究、それらをもとにした新興国・途上国の都市公共交通の計画論について、経済発展、社会福祉、環境問題、防災問題、情報技術進展などの切り口とのつながりを念頭に研究会メンバーで討議し、計画論のあり方を明らかにすることを目指した。特に、情報技術進展については、スマートフォンアプリのレベルから、MAAS (Mobility as a Service)や自動運転技術にかかる議論の新興国・途上国への波及も視野にいたした。経済発展については、中規模都市の中心市街地の街路空間での活動のようなミクロ的視点も踏まえることとした。		
研究の経過（4月～3月）： 第1回の会合を2018年6月12日に開催し、今年度の研究活動計画の確認を行った後、他学会での研究活動や科研費での研究活動動向を共有した。MaaS についての世界的な動きについての情報共有、中規模都市での都心地区ストリートマネジメントのケーススタディとして、タイ王国東北部中規模都市コンケンでの活動状況を共有した。 第2回の会合を2018年10月6日に開催した。コンケン市での取り組みの経過共有、ラオスのビエンチャン市、ブラジルのクリチバ市、モンゴルのウランバートル市、それぞれの都市でのバス事情の情報共有がなされた。また、途上国での TOD（公共交通指向型開発）の考え方についての討議も行った。 第3回の会合を2019年2月14日に開催した。新しい交通サービスとして注目されるシェアリングシステム、自動車のあり方そのものを変える可能性をもつ自動運転技術、そして市民とのインターフェイス、供給サイドの各関連主体間のインターフェイスにもなり得る MAAS を視野にいたした検討に向けた議論を展開した。		
研究の成果（自己評価含む）： 3回の会合を通して、新興国・途上国の都市公共交通の最新の動き、現状の課題を共有し、今後のあり方を討議できた。特に、シェアリングサービス、自動運転技術、MAAS に関する最新の動きと、新興国・途上国都市への応用可能性、TOD の議論と新興国・途上国の都市開発動向の関連性等の議論を経て、これからの新興国・途上国の都市公共交通の計画論のための課題がある程度整理できたといえ、当初の研究目的はほぼ達成できたといえる。		
今後の課題： 新年度は、今年度の成果を踏まえ、継続的な各都市でのバス輸送状況の情報収集と共有に努めた上で、シェアリングサービス、自動運転技術、MAAS や TOD を踏まえた計画論の具体化と深度化をめざす。あわせて、関連研究論文を通じた学術的知見の情報共有をより推進したい。		